

gururiの一日

東京・谷中には60以上ものお寺がある。お寺の古い建物や境内の木々が、都心とは思えないのんびりとした雰囲気をつくっている。昔ながらの商店や住宅がまだ残っていて、下町の風情が感じられる。たびたびテレビ番組で特集が組まれる商店街「谷中ぎんざ」はコロッケが有名なお肉屋さんや、角打ちのある酒屋さんが並び、観光客でにぎわっている。谷中ぎんざを曲がると「よみせ通り」がある。ここにも花屋さんやお寿司屋さん、パン屋さんなどが軒を連ね、地元の人たちも行き来している。よみせ通りを進んで行くとだんだん道幅が狭くなる。ここは藍染川という小川が暗渠になった道なので、川の流れに沿って曲がりくねっている。そのくねくねとした様子がへびにたとえられ「へび道」という名前がついている。へび道の中ほどに9軒の、それぞれ5坪ほどの小さなテナントが並んだ長屋があ

る。壁は白く塗られているので一見きれいな建物だが、築年数は50年以上ではないかと不動産屋さんが言っていた。その長屋の真ん中にgururiがある。

午前11時半にお店に到着。大きな窓の前には木製のベンチ。そのとなりには木の建具にガラスをはめたドア。ガラスにはお店のロゴである女性と猫のイラストが描かれている。ドアを開けると、部屋にしたら6畳くらいの小さな空間が広がっている。しばらくドアを開けたままにして、店内に風を入れる。左右の壁に棚があり、雑貨と本が並ぶ。真ん中には丸いテーブル。ここにはいちおしの本を置いている。そこを抜けて奥にはレジカウンター。さらにその奥にバックヤードがある。そこから掃除機を取り出して、お店のすみずみまできれいにかける。それが終わったら、お店をイメージして自分でブレンドしたアロマオイルをスプレーする。ヒノキで落ち着きを、ハッカでさわやかさを、ラベンダーやゼラニウム、マージョラムでやさしさを、レモンで軽やかさが出たらいいなと思つてつくった。ときどきお客さまに香りをほめてもらうことがあつて、販売してほしいとリクエストをいただいた。売れ行きが好調なのがうれしい。

11時45分。窓の上に設置されたエアコンと、その真下に置いた扇風機をセットする。暑すぎず寒すぎず、心地よい温度を探る。そしてスピーカーの電源を入れて音楽をかける。音楽は、季節と天気にあわせてプレイリストをつくっている。夏なら涼しげなもの、冬なら落ち着いたもの。晴れの日には陽気に、雨の日はしっかりと。

音楽が決まったあとは花瓶の水替え。窓辺と棚の上に花を飾っている。気に入つて通っている花屋さんが2軒あり、そのどちらかで花を買う。華やかな花よりも庭に咲いていそうな素朴なものを選ぶことにしている。花瓶の水を替えると店内が新鮮な空気になる。花屋さんにその話をしたら、花も生きているからね、と言っていた。

12時、お店をオープン。OPENの札を窓辺に立てかける。オープンを待つてくださったお客さまを出迎える。そうして一日が始まる。オープン直後のお客さまは、会社のお昼休みに立ち寄つてくださる方や、遠方からgururiを目指して来てくださる方が多い。私は目を合わせて「こんにちは」と声をかけ、その後はじっくり見てくださいたいから気配を消す。店にはさつき選んだ音楽が流れている。道をはさんだ向かいのお家の庭に大きな木があり、晴れた日にはその木漏れ日が店内に差し込んでゆらゆら揺れている。そういう静かな時間のなかで、

お客さまが本や雑貨を楽しんでくださっている様子を感じるのが私はとても好きだ。

14時、お客さまが一旦落ち着く。店内に飾っている植木を外に出す。バックヤードに戻りジョウロに水をくむ。植木に水をあげたら、鉢をしばらく外に出したままにして陽の光を浴びてもらう。そのころに宅配便で段ボールいっぱいの本が届く。中を開いて本を出していく。4、5冊ずつ手に取りジャンルごとに振り分ける。ダンボールが空になったら小さく折り畳み、お店の建物の裏にある資源置き場に持って行く。そのときに並びのお店の方と目が合ったら、手を振る。「がんばろうね」とエールを送り合うような気持ち。お店に戻ると店内にすでにお客さまがいたりして、お互いにびっくりして笑う。その後もお客さまが続いて、合間に入荷した本を整理する。

そうこうしているうちに閉店の18時。照明を落とし、OPENの札を下げる。その日に売れた分の雑貨や本をバックヤードから持ってきて補充する。売上を記録して、釣り銭の整理。バックヤードとトイレの掃除したら閉店作業はひとまず終了。そこからは日中にやるはずだった雑貨や本の発注作業に取りかかる。クーヒーを淹れて、お客さまにいただいたお菓子を食べながら。つついとお菓子が

止まらなくなることもある。発注が終わったらSNSの更新。

気がつくと21時。帰り支度をする。店内の照明を消すが、窓辺の小さなスポットライトだけはつけたままにしておく。これは開店当初にご近所のおばあちゃんから、この窓辺を見るのが楽しみなの、と声をかけてもらったから。そういう人がいる限り、窓辺を飾り、灯りをつけておこうと思う。

ドアの施錠をしたら2回指さし確認をする。お店を外から眺める。私のお店であって、私のお店でないような不思議な感覚。帰り道は、お客さまのお話を反芻したり、一日を振り返る。いつか営業中にひと休みして読書ができれば最高だなあと思っているが、開店以来まだ一度もその時間をとれずにいる。

冬の日記

2024年12月18日(水)

一日お客さまが続きました。夜からはお話会「中年女性の困りごと」でした。お話会は、お店のとなりの「展示室@Eunoia」で定期的に行っているイベントです。展示室をオープンしたのは、2024年の10月のことでした。もともとおとなりにはドレスショップが入っていたのですが、遠方に移転することので、6月に閉店されました。ちょうどそのころ、私はイベントをする場所を探していました。お店のとなりの部屋が空くなんて、これは借りないわけにはいかない。すぐに大家さんに相談して賃貸契約を結ぶことになったのでした。

お話会は、昨年からずっとあたたためていた企画です。展示室をオープンした10月から、月に1〜2回のペースで、7人ほどが集まって、一つのテーマについておしゃべりしています。参加してくださいくださった方が、友だちにも話せないようなことを話せる場所だと言ってくれました。会が終わるころには窓ガラスが真っ白に曇っていた！ 私たちの熱気がすごいからだね、なんて笑い合いました。帰り道はすっきりさわやかな気持ちです。お話会、やってよかったなあとしみじみと思えます。

12月19日(木)

今日は往来が少なくさみしい一日でした。それでもお店に入ってきてくれて、本を読む人がいるのですが、お買い物にはつながらないのが残念でした。どうやったら「買わずにはいられない」気持ちになってももらえるだろう、と考えています。

よくお店に来てくれる、ご近所のおじいちゃまの姿が見えなくて心配しています。部屋の灯りも消えカーテンも閉められています。玄関チャイムを鳴らしてみようかと考えるも、やりすぎかなと思いとどまりました。

12月20日(金)

金曜日の今日は20時までの夜営業です。夜までお店を開けていると、お仕事帰りに寄ってくれるお客さまがいるのでうれしい。今日も常連のお客さまが来てくれました。となりの展示室ではアロマテラピーのワークショップが開催されました。急遽キャンセルが出たと聞き、せっかくなら私も参加してみようと、その席に入らせてもらいました。さまざまな精油の香りをかぎ、頭も心もすっきり。好きな香りを組み合わせてルームスプレーをつくりました。

帰りにご近所のおじいちゃまの部屋を見ると灯りがついていて！ ほっと安心します。またお店に姿を見せてくれたらいいなあと思いつつ帰宅しました。

12月21日(土)

お店の向かいの山茶花が満開です。山茶花の赤が日に照らされて輝いています。お客さまは少なめです。今年のクリスマスは平日なので、この週末にクリスマスにちなんだイベントが多いのではないのでしょうか。谷中に住む人が言うには「クリスマスは谷中に人が少ない」。たしかに昨年人も少なかつたなと思いつきました。ゆったりとした週末もいいものです。それでも、ぼつぼつと常連のお客さ

まが来てくれてうれしい。応援してもらっているのを実感します。

12月23日(月)

今日は定休日ですが、夜は「スナックぐるり」というイベントがありました。谷中の初音小路にある、「バー星くず」さんをお借りして、隔月で開催しています。これまで、好きな詩を持ち寄って朗読する会や、誰にも話すことのなかったようなささやかな話をする会などをしました。年末の今日は「今年いちばん心に残った本」がテーマ。6人のお客さまがカウンターに座ってお酒を飲みながらお話をしてくれました。動物学の本からエッセイ、海外文学まで幅広いラインナップ。迷いやかなしみの中にとどまり続ける、そんな本をあげる方が多く、みなさんがひとつのテーマでつながっているような気がしました。おだやかでやさしい時間でした。

12月24日(火)

今日も定休日です。クリスマスイブだけど、今困っている人たち、心細い人たちもいるのではないかと思い「せかいビバーク」の「緊急お助けパック」につい

てSNSでお知らせをしました。「緊急お助けパック」とは、急に住むところがなくなって今夜泊まる場所がない人に、その日泊まる場所を提供し、翌日に公的支援機関につながってもらうための物資やガイドが入ったものです。当店はこの受け取りスポットになっていて、これまで数名の女性にパックをお渡ししました。

受け取りに来られる人は、一見困っているように見えませんが、でも大きな荷物を抱えていて、不安そうな表情をされています。お客さまの中には、この取り組みに共鳴してくださって、パックを受け取りに来た方にお渡しする食事券やギフトカードなどを寄付してくださる方もいます。それも一緒にお渡しして、まずはあたたかいものを食べて休んでくださいとお声かけしています。

12月27日(金)

今日は仕事納めの方も多いのではないのでしょうか。年末の実感がなかなかわかずにいましたが、27日もなると一年がほんとうに終わっていくんだなあと思います。一日絶え間なくお客さま方が続きました。いつものお客さまも初めてのお客さまも、やさしい雰囲気の方ばかりで、私もお客さまに影響されておだやかな気持ちになっていました。お店というのはこうやってお客さまと響き合っていくものなのではないかと思えます。帰り際には「よいお年を」と声をかけ合いました。

12月28日(土)

年内最後の営業日です。今日もお客さまが途切れませんでした。おとなりの展示室で開催していた「にゃんとこ展」も大盛況でした。にゃんとこさんは、富士山と猫、獅子舞と猫など、「おめでたいもの」と猫を組み合わせたイラストやオブジェをつくったり、盆踊りを踊ったりしているお祭り好きのユニットです。谷中の町の雰囲気とも合っていて、ご近所のお客さまにもファンが増えました。

新聞社の記者さんから、夏に受けた取材がウェブサイトで記事になったとご連絡をいただきました。「私の声の上げ方」というテーマで、反戦や連帯の思いを示すプロテストの方法について「Be.NEED」を取り上げていただいたのでした。「選挙に行こう」と書かれた紙を街頭に掲げる「ひとり街宣」、大学のキャンパスにテントを張り、イスラエルへの抗議の意思を示す学生たち。続いて、パレスチナの国旗や連帯を呼びかけるステッカーを置く私のお店。三者とも大規模なデモや